

○2番（染谷直人君） 改めまして、こんにちは。傍聴の皆様も、足をお運びいただきましてありがとうございます。議席2番、染谷直人でございます。橋本町長におかれましては、日々町政発展のためご尽力いただいておりますことを心から敬意を表したいと思っております。それでは、議長のお許しをいただきましたので、ただいまより通告に従いまして町政に対する一般質問をさせていただきます。

本日は、橋本町政12年間の取組と実績について、町民の皆様にご改めてその歩みをお伝えできる機会にしたいと考えております。橋本町長が就任されてからの12年間、境町は財政、教育、子育て、交通、防災と、あらゆる分野で劇的と言っていいほどの変化を遂げてまいりました。私は、議員としてその一端、3分の1の期間を見続けてまいりましたけれども、どれも一朝一夕にはなし得ない改革であり、町長の強いリーダーシップと関係者の皆様のご尽力のたまものであるということ、まず冒頭申し上げたいと存じます。

それでは、順に伺います。1点目、負の遺産となっていた懸案の処理についてでございます。まず、土地公社の借金、食肉処理場跡地、雇用促進住宅、借地の賃料と固定経費の圧縮といった、まさに負の遺産とも言える懸案の処理について伺います。これらは、長年境町の財政を圧迫してきた案件でございますが、町長の就任以降、着実に整理、解決へと向かってまいりました。そこで、これまでの処理の経過と実績についてご説明をお願いいたします。

続いて、教育分野の実績について伺います。アの学童保育については、この12年間で受入数を含めどのように変わったのか伺います。

次に、イ、体育館をはじめエアコンの設置やLED化などの整備状況について、町長の下で大きく進んだと感じております。その結果について伺いたいと思っております。

さらに、ウとして境町の大きな強みとなっている英語教育の充実の成果についてご説明をお願いいたします。

続いて、公共交通の充実についてであります。公共交通の分野でも、境町は全国的に注目される自治体となりました。アの自動運転バス及び高速バスの誘致、デマンドバスの導入などの実績について伺います。

また、イのスクールバスの充実についても大きな前進があったと思っておりますので、その内容についても教えていただきたいと思います。

次に、財政でございます。境町の変革の中心とも言える分野でございます。アとして、町長が掲げてこられた稼ぐ自治体の象徴として、この12年間で稼いだ金額、ふるさと納税、企業版ふるさと納税、補助金、固定資産税等について伺います。

そして、イの財政の健全度の変化及び今後の財政予測についても、町民の皆様に分かりやすくご説明をいただければと思います。

最後に、防災、危機管理の実績について伺います。アとして、関東・東北豪雨での災害対応及び今日生かされている教訓について。

そしてイとして、コロナ禍で実施した主な対策についてお伺いし、町長の12年間でどのように危機と向き合い、町民の命を守ってきたか、改めて確認したいと思います。

以上、橋本町政12年間の歩みを振り返りながら、町民の皆様にしかりと情報をお届けするための質問をさせていただきたいと思います。町長におかれましては、これまでの実績をぜひ分かりやすく、そして力強くお示しいただければ幸いです。

以上、1項目5点の1回目の質問とさせていただきます。執行部の誠意あるご答弁をお願い申し上げます。

○議長（倉持 功君） ただいまの橋本町政12年間の取組と実績についての質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

〔町長 橋本正裕君登壇〕

○町長（橋本正裕君） それでは、染谷直人議員のご質問にお答えしますが、何か回答はこんなに厚いのです。こんなに厚いので、時間が……

〔「10分から5分ぐらい」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） ぐらい残す。では、ちょっとはしよりながら説明をさせていただければと思います。先ほどは鈴木議員さんから、3期12年の境町モデルの成果とか今後ということまでいただきまして、今回染谷議員からは、今までのどういうふうに変ったかということ、この12年でということをお聞きされているのかなと思います。

まず初めに、土地公社の借金につきましてとか、それから食肉処理場の跡地、雇用促進住宅、借地の賃料の解決とか、様々な懸案事項については、最初にやることリストというのを作ったのです。やることリストというのをやって、12年前当時は、姉妹都市、友好都市も国内国外ゼロだったり、借金が多かったりとか、全てやることを全部書いていって、それを1個ずつ塗りながら、やったら塗って、やったら塗ってってやってきました。

そんな中で、土地公社の借金は当時1億7,346万円あったわけでありましてけれども、こちらも計画的な買戻しを進めるとともに、令和3年度には残りの全額7,120万9,554円を返しまして、精算をすることができました。さらに食肉処理場跡地というのは、屠場跡地ってなかなか売却って難しかったのです。解体するのも大変だというような状況にあったのですけれども、ちょうど時期もよくて、あちらを買いたいという町の方がいたものですから、そちらに800万円で売却をするとともに、防犯灯の設置なども道路をお願いして、防犯灯もつきました。さらには、年間になると固定資産税として24万円の収入が入ってくるということで、12年間24万円入ってくるわけですから、もう240万以上の300万近いお金が町に入ってきているというようなことになっております。

また、雇用促進住宅については、ちょうどあそこは全部で何戸あるのでしたっけ、全部だと。

〔「60」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） 60戸で、うちに来たときが4軒ぐらいしか入っていなかったのだけ、何か10軒とか4軒とか、そういう数字ですよ。境町に売りに来たのです。60軒中、入っているのは多分1桁ぐらいでした。もうほとんど五十何軒空き家なのです。我々に持ってきた金額が1億円でした、ハローワーク。僕らに1億円で買えと。そのときは、今のいろんな話ではないですけども、ちょうど入り口が町の土地だったのです。ですから、壁建ててしまえば入れないではないですか、壁建てたら資産価値落ちるのではないかとって、資産価値やってもらったら見事に落ちたのです。ハローワークさん、最終的には2,500万円であの2個の建物と土地を我々に売っていただいたわけです。それを補助金も使ったものですから、2分の1は補助金を使いました。ですので、1,250万円であの建物を手に入れたわけでありまして。今では、年間に家賃収入が2,500万以上あるということでありまして、ちょうど平成29年、30年頃からですから、もう六、七年ですから1億以上町に入っているような計算ですので、これもソーラーと一緒に、あのとき僕が買ってしまえば、今頃町にレンタル代払いながら片手でやられているような、そんな施設でしたけれども、町の力もあって年間にこれだけ稼げるような施設に生まれ変わっております。

さらに、先ほども借地の話をしましたけれども、平成26年度の年間の借地料の合計は4,049万円でした。令和7年度の借地料の合計は今3,058万円ということで、1,000万円ほど削減をさせていただいております。先ほどのシンパシーホールのところ、あれがなくなればまた400万減りますから2,600万ぐらいになるというところで、やっぱり払い続けるってなかなか難しいものですから、そういう今解決できることは解決できるうちにということで、しっかりとやっていきたいなというのがこのところです。

具体例で言うと、ふれあいの里を減額していただいたり、塚崎一区の公民館の敷地を購入させていただいたり、さくらの森の公園の敷地も購入させていただきました。さくらの森なんかは年間429万だったものですから、さくらの森に賃料だけで400万以上払っていたのです。毎年です。それなのに管理費もかかるわけです。やっぱり管理費も、あれだけの木とかがあるものですから、なかなか管理もできていなくて、非常に逆に危ないって言われるところに毎年400万以上かかるわけです。そして、いろんなものを直すのに何百万もかかるわけです。だから、そういうものも1個ずつ1個ずつ、やっぱりやっていかなくてはならないのです。ですので、ふれあいの里の今のコピーリスクールを誘致した場所、あそこも実は賃料だったものですから、あそこの土地も購入をさせていただいて賃借料なくなりましたし、さくらの丘公園って、ちょうどこっち側のジャンプ台を造っている脇のところ、あちらも実は年間200万払っていたのです。何にもないと言われれば何にもないですよ、あそこに200万。しかも管理費もかかりますから、桜の木。それも地権者の方、親戚の方とかも多いものですから、安く買い上げさせていただいてコストがなくなったり、実は7分団の敷地もずっと借りていたとか、年間7万払っていたとか、細かいところでもありますけれども、そういったことでコスト削減をしたというものが、この①の負の遺産になっていた懸案の処理についてということで、そのほかにもた

くさんあるのですけれども、1個ずつやることリストの中で気づいたものはやっていったと。水道事業についてもそうですし、様々なものがそうです。環境センターなんかも、あちらの管理者も僕やっているものですから、年間5万円でやっていたのを今度幾らに上げてくれたのでしたっけ、年間50万ぐらいに上げてくれたのかな、25万でしたっけ。ですけれども、あのとき7億だった貯金が今は三十何億に増えました、12年間で。やり方次第で変わるのです、やっぱり。ですから、経営ってやっぱりやる人によって、ファーストリテイリングもそうですよね、柳井さんが社長交代したら駄目になって、また柳井さんになったら今では世界であれだけの企業になったりするものですから、やっぱりやり方次第で行政というのも実は変わる部分がございます。

②の教育の充実について、学童保育の受入数は、当時学童保育はふれあいの里幼稚園って、今コピーリスクールがあるところでありましてけれども、あそこにみんな集めてきて、全て学童保育はあそこでやっていたのです。やっぱり学童保育も各学校の近く、もしくは各学校に学童保育があったらいいねという話を聞いたので、各学校に全てつくらせていただきました。森戸地区だけははなぶささんがやっていたので、どうするこっちの中につくる、それとも今のままやるというのをはなぶささんに聞いたところ、今のままでやりたいというので、森戸地区はあのままになっておりますけれども、猿島、長田、境、静については放課後児童クラブを学校の敷地内、もしくは敷地の隣につくらせていただきました。そういう意味では、当時定員は200名でしたけれども、今現在の定員でいくと444名、さらに今年2つ、境と長田が5、6年生まで入れるために増築していますので、そうなると542名の放課後児童クラブになります。ですので、200名の頃からするとやや3倍の放課後児童クラブの定員数を確保するようになるというふうに思っております。

そして、体育館をはじめエアコンの設置やLED化など設備状況についてにつきましては、本当に……まだ学童がちょっと続いていたのですよね。放課後児童クラブについては、今休みの期間、夏休み、春休み、冬休み、そういった期間に八王子市が昼食を提供していたのです。ですので、これはやるべきだなと。やっぱりうちの子たちも、一番上が今4年生ですけれども、1年生で行ったときにはお弁当を持っていくのです、夏休みとか。お弁当を持って行ってどこに置くか、皆さん知っています。普通は冷蔵庫だと思うでしょう。でも冷蔵庫になんか置けないですよね、100人もいたら。どこに置くかって、エアコン効いているからって室内に置くのです。危ないでしょう、そんなの。それが今までです。今までは、お弁当を持って行って部屋に置いておくのです。これ危ないからと思って、もう八王子市がやっていたので、しかも給食センターって夏の間何しているのだろうと思うではないですか。そうすると、メンテナンスしているとか、清掃しているとか、研修しているとかって言われるのですけれども、でもやっぱり作れますよねと。それで今は給食とか、そして給食がメンテナンスのときはお弁当を配食するようにしてやらせていただいています。非常にそういう意味では、放課後児童クラブについても充実をしてきていて、境町はお昼が出るからいいよねとか言われるようになってきているのではないかなというふうに思っています。

さらに、学校関係の体育館をはじめとした、エアコンをはじめとしたLED化など、こういったものについては中学校は1億5,000万円ほどかけて、さらには小学校5校は2億5,000万円ほどかけてエアコンを設置させていただきました。しかし、これは実は緊防債といって、避難所に指定をすることによって7割手当されるのです。今まではそういうのみんな知らないから、エアコンってお金かかるからできなかったわけです。でも、この緊防債を使ったことによって、全ての小学校、中学校にエアコンを設置することができました。この境町の取組を隣の黒川議員さんに教えたところ、古河市もこれだったら財源なくてもできると言っていて、古河市の小中学校の体育館のエアコンを今回の選挙前に発注を行ったのは、境町を見習って、このやり方だったら古河市もできるということで、全小中学校にエアコンをつけたということで聞いておりますので、そういった形でエアコンをつけさせていただきました。ただ、LEDについては、境小学校と境一中など数校はLEDになっているのですけれども、あと2年で蛍光灯が使いなくなるということになっておりますので、今後境町としては全ての小中学校、LEDに取り替えたいということで、もうこの間も指示をしたところでありますので、この庁舎も多分1、2階だけLEDなんだっけ、1階だけだっけ。

〔「1階です」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） 1階だけかな。なので、やっぱり2年後に向けてしっかりとLEDに替えていく部分はLEDに替えていくということできっちりやっていきたいというふうに思っているところであります。

さらに、ウの英語教育の充実の成果について、皆さんのお手元に町の資料を配らせていただきました。その中に、英語教育についてというのが入っていると思うのです。英語教育について、これです。全ての子供たちが英語を話せる町にということで、これ開けていただいて、後ろのほうから1、2、3、4、5、ここを見ていただくと、境町の当時やらなかったときに、英検3級の保有率が9%で、今は52%とか、これ令和6年はもうちょっと下がったけれども、大体この四十数%から50%、やや半分のお子さんたちが英検3級を保有していると。小学校に至っても、70%以上のお子さんたちが英検5級を保有しているというような状況ですので、非常に効果があったということが言えるのかなと思っていますし、先ほどの鈴木議員さんの質問の中でも、境町から発信をして横展開で日本の全国にという話がありました。この英語教育、岡本三成先生と一番最初に公明党さんの、ちょうど北関東比例だったものですから、あのときに岡本先生と一緒に始めて、その後遠藤乙彦さんを紹介してもらってこのSGS事業始まって、今はアチーブさんと一緒にやらせていただいておりますけれども、この事業につきましては、県内では大子町、大洗町、桜川市、鹿嶋市、行方市、河内町、美浦村、稲敷市、つくばみらい市に横展開をしております。さらに全国では、東京都稲城市、東京都新島村、東京都小笠原村、神奈川県松田町、静岡県小山町、岡山県奈義町、高知県須崎市、愛媛県西条市、沖縄県宜野座村などに展開をしております。来年度からは、山梨県笛吹市や愛媛県今治市なども入るということで聞いてございますので、この英検の状況につきましては、横展開で非常に多くの全国の自治体に普

及しつつある状況にあるというふうに思っていますし、さらには本年度の速報値といたしましては、11月時点で中学3年生の英検3級の保有率は51.1%ということで、前年度と比較すると7.7ポイント上がったというような報告を教育委員会からいただいておりますし、さらに茨城県教育委員会主催の英語プレゼンテーションフォーラム中学生の部県大会において、28校中、令和6年度は境第二中学校が2位に相当する茨城県議会議長賞、これは半村県会のときではないですよ、大丈夫ですよ。

〔何事か言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） 半村県会のとき、ではちょっとあれか。大丈夫かな。そんなことはないでしょうけれども、2位に、そして本年度は境第一中学校が3位に相当する茨城県の教育委員会教育長賞を受賞したという報告を、ここで今紙でいただいておりますので、非常にそういった意味では、この英語教育がしっかりと着実に成果を上げているということが言えるのだと思います。

本年度においては、オンライン英会話教室を始めまして、このレッスンを5年生、6年生だけではなく、小学校1年生から体験ができるようにということで、小学校1年生は年に1回とか2回になってしまうかもしれないですけども、そのぐらいの間隔で1年生などもやっていっておりますし、さらには今後、今民間を含めた保育園、幼稚園の園長先生方に、派遣してほしいかどうかというアンケートを取っています。つくばみらい市がそうなのですけども、つくばみらい市が18人、民間の保育園、幼稚園も合わせて、全保育園、幼稚園にALTを派遣しているのです、新しく今年から。ですので、非常にその効果が出ているという話も聞いていて、それをこの間こども未来課にも見に行ってきたので、来年度において、保育園、幼稚園の負担はなしで、我々はもしそういう要望があれば配置をしていきたいというふうにも思っているところであります。

さらには、よく町の人から言われるのです。この英語教育、子供たちだけではなくて職員さんとか、それから一般の方々用向けに、このALTさんを使わせていただけないかという話があるのです。ですので、こういった部分は先生たちの働き方もありますので、できる範囲で、ぜひ議会の皆さんとも相談しながら、そういう町民向けの英会話教室なんていうものもやっていければなというふうに思っていますので、よろしく願いをいたします。

③の公共交通の充実について、自動運転バス及び高速バスの誘致、デマンドバスの導入等の実績について伺いたいとございますけれども、本当に自動運転バス、ちょうどアンケートなんかをいろんな大学とかが取っていただいているのですけれども、4年前は自動運転バスの成果というところで、いいと思う人と悪いと思う人が半々でした。大体だから100対100みたいな、そういう反応でした。今回4年たってやってみると、150対50ぐらいの感じに変わってきております。ですので、前よりも50減ってこっちへ50上乗せになっているので、効果は上がってきているのかなと。ただ、やっぱり運営経費がかかるものですから、ここの運営経費の部分をどうやって毎年捻出していくか、今は補助金取りながらやっておりますけれども、そういう部分しっかりとやっていければいいのかなというふうに思っております。

そして、今この自動運転バスも、令和7年11月30日時点で延べの利用者ですけれども、4万5,784人ということで、さらに町が実施したアンケートの聞き取り調査では、利用者から、運転免許を返納したので、また外出できるようになり本当に助かるとか、乗車中に揺れが少なく安心して乗っていられる。子供が楽しそうに乗っており、将来の交通の形を見せてもらった。注目されていると実感をしている。町外の孫が帰ってきたときに乗せていくようにしているなど、多くの意見をいただいているところであります。また、BOLDLYによれば、自動運転バスの運行に伴うテレビや新聞などによる宣伝、国内外から毎年約150件の視察客などによる飲食や買物など、経済活動による経済効果は5年間で35.7億円と試算をされるということで、民間の指標でBOLDLYからいただいているところでありますので、投資した金額としては、年間1億5,000万から2億で一般財源は5,000万円というところでしょうか、一般財源というか、町の持ち出しは年間5,000万円というところでしょうか、2.5億円で35.7億円の経済効果を生んでいるということは言えるのかなというふうに思っています。

また、高速バスについて、やはりコロナがあったものですから、成田行きのバスについてはなかなか回復をしてきているというところまでは言えないところでありますけれども、徐々に徐々に改善をしてきておりますので、町政報告の中に大体400人前後月に乗っているということでありましたので、ぜひこちらも、成田行きを使っていただくようにしていただければなと思っております。そして、あとは本数もそうなのですけれども、東京駅行き的高速バス、非常に利用者の皆様方からは、駐車場もなく困っていると、町民体育館の駐車場に止めないと今は止められないよとか、それから最終便に乗るときは、もう東京駅で行列になっていて、予約ではないから乗れるかどうか心配だとか、非常に多くのご意見をいただくような人気のバスになってきております。全員が境町の人ならいいのですけれども、多分旧三和地区の方とか、やっぱり坂東市の方、八千代町の方も大分利用されているのではないかというふうには思っておりますけれども、当時ちょうど月3,000人乗ればとんとんと言われていたのです。今ではもう5,000人を超えているということで、非常にどんどん、どんどん利用者が増えてきているバスになっておりますし、さらには、うちの境町から今大学生が11人大学へあのバスで通っているのです。ですので、非常にやっぱり駅のない境町としては、公共交通網として助かるということ非常に言われているのと、始発で行くと仕事には早過ぎてしまうのだとか、あと1本遅いバスがあるといいのだとか、いろんな意見いただいておりますけれども、JRさんとも打合せをしながら、一番いいあんばいの時間帯をしっかりとやっていきたいなというふうに思っているところであります。朝の時間帯は、5時頃行くと定時で着くのですけれども、あれを1時間遅らせると片道2時間以上かかったりしてきてしまいますので、やっぱりちょっとその辺はJRさんのほう、関東鉄道さんのほうもいろいろ考えながら配分はしていただいていると思いますので、その辺も今後もいろんな声があるということで伝えていきたいなというふうに思っているところであります。

そして、AIデマンドバスについては、東京大学のモビリティ・イノベーション連携研究機構の須田先生と、北本市を参考事例として今やっておりますけれども、登録者は順調に今増えておりまして、

619人まで増えてまいりました。利用者は延べで5,000人に迫るところまで来ております。これをちょうど鈴木議員さんから何回も言われてはいますが、町内の、あそこでは長田地区と変わらないのではないかと、ここだったら猿島地区と変わらないのではないかと、そういう部分について、そして自動運転バスがほぼ走っていない地域については、やっぱりデマンドバスが呼べるような形でやっていたらいいと思いますし、この間言われたのは、こういう片仮名が分からないって言われました。広報のペラペラのやつあるではないですか、あれを入れたときに、AIデマンドって何だって、そこから始まるわけです。なので、やっぱりそういうのも町民の皆さんで使われる方は、AIデマンドって分からないではないですか。AIデマンドとは何か、何とか何とか片仮名のところが、みんなやっぱり今どきの言葉が多いものですから、そういったところも配慮しながら広報文書も作っていかないと駄目だなあというふうに思ったところなので、デマンドバス、デマンドバスというと、僕はデマンドバスといって、大体そういうタクシーのようなものだなんて分かるのだけれども、やっぱり一般の方はデマンドって言われても、何だデマンドって思うわけですし、スマホは持っていて、アプリを入れたりには実はできなくて、ラインと電話はできるけれどもとか。なので、この間もさかエール！！Pay入れるのはできるのだと、使うとき分からないのだと。中に2,500円入っているのだけれども、この使い方が分からないそうなのです。だから、そういうことも住民に寄り添った政策で、今回は65歳以上には紙のチケット出していますので、そういった形で、やっぱり分からないことは町としては説明する努力をしていくことが必要だなと思っています。

スクールバスについては、40年間ずっとスクールバスは、分校からとかやっていたけれども、もうここは2キロという線を引いて今スクールバスを出しているところでもありますけれども、こういうものも、そのときそのときの今の時流に合わせて、やっぱり2キロ離れていないけれども、子供が1人になってしまって1人で通っているとか、いろんなところあると思うのです。だから、やっぱりそういう保護者の皆さんの意見を聞きながら、さらには今日ちょっと朝、教育長とか議長と話して思ったのですが、森戸と猿島で20億かけて新しい学校を造るなら、逆にスクールバス全部出してしまって、そっちにみんな長田とか境に連れてきてしまえば、そっちのほうがよっぽど安いのではないかと、いろんなことを、それだったら毎月5万円上げるから境小に移動しろとか、しろって言い方悪いですね、移動しませんかとか、そうすると、みんな毎月5万円もらえるのでは移動しますよね。でもそういうことですよ、20億かけて本当にそこにやって、どんどん子供減ってしまっているのかとか、それだったらスクールバスを全地域、森戸と猿島に出してくれて、全員がスクールバスで通えたらそっちのほうが安全だし、親も楽ではないのかとか、こういう部分はやっぱり実際に議員の皆さんと、どういう在り方がいいのだろうというのをやっていかななくてはならない、費用対効果の部分でも思いますので、やらないというわけではなくて、もともと猿島小学校にまず一旦森戸小学校をくっつけるかとか、そういうアイデアの中で、ではスクールバス出すかというのだったら、最初からもうスクールバス全員に出してしまったほうがいいのかとか、そういうことにもなりますので、スクール

バスについては、この間改善したときに皆さんに喜ばれましたけれども、まだまだ改善の余地はあるというふうにも思っておりますので、ぜひいろんな意見を皆様方から聞かせていただければと思っています。

今は、猿島小学校、静小学校は、今まで1年生から3年生の児童だったのを6年生まで拡充をさせていただきます。さらに、今利用しているのは、猿島小学校は登校時に利用している方が83名、下校時に利用している方が62名、全児童に占める登校時の利用者の割合は何と50%です。そして、森戸小学校については登校時に利用している子が35名、下校時に利用している子が49名、全児童に占める多いほうの下校時の利用者の割合は30%であります。静小学校については、登校時に利用している子が21名、下校時に利用している方が17名、全児童に占める登校時の利用者の割合は25%となっておりますので、意外に猿島小学校なんかも5割の子がスクールバスで実は通っているというところでありますので、逆に猿島に寄せるのではなくて森戸に寄せてあと5割でもいいかなとか、そんなことも考えられるのかなと思いますので、逆に皆さんとともに何が一番子供たちにとっていいのか、そういったものを考えながらこのスクールバス事業もやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そして④番、財政の改善について。こちらについて、この12年間で稼いだ金額の金額について伺いたい。アですけれども、こちらについては、皆さんのお手元にスピード感とアカウントビリティーと書いたものがございます。その中で、こちら財政の再建のところでは18という番号のところでは18、ここにふるさと納税、僕が就任したときは6万5,000円で、6年間で8万円、13万、20万、30万ぐらいかな、6年間で31万円でしたけれども、それがこの11年で438億と。今年も多分50億はいくでしようから、500億弱はふるさと納税で寄附が集まった。さらには、この3割が町の物を買っていますから、3割が町の経済効果になっているというところであります。

さらにもう一枚めくっていただくと、企業版というのがございます。もう一枚ではない、もう2枚か、企業版……

[「22に……」と言う者あり]

○町長（橋本正裕君） 22だね、町の政策と書いてあるから分からなくなってしまう。これは、ここが企業版です。受入額で26億1,000万ということで、企業のところを歩いて、企業の皆さんが、境町分かったと、では寄附するよと。今回もワイキキビーチで花火上げましたけれども、ワイキキのホノルルの皆さんからは、今までの人生の中で3本の指に入るようなすばらしいイベントだったって今回初めて、今までも花火を上げていたのだけれども、今回は特に上げ方もよかったのか、呼ぶ人たちもホノルルの議員さんとか、それから州知事なんかも来てくれて、それからホノルルで有名な起業家の方なんかも入っていましたので、非常に多くの皆様の中で花火を上げさせていただきましたけれども、あれも実際には1社から4,000万、さらに1社から1,000万、もう一社から1,000万、さらにもう一社から500万ずつで1,000万と、7,000万、そして個人のふるさと納税1,000万で8,000万円いただいております。

すので、個人のやつは12月までに振り込むって言われているので、1,000万円来ると思いますけれども、現実にもう7,000万入って、使った金額はあんまり言いたくないのであれですけども、20万ドルもいかない、20万から25万ドルなので、多分3,000万から4,000万ぐらいなので、半分ぐらいもうけみたいな、あんまり言うと、そんなにあれなのだったら返してくれなんて言われるかもしれないので、その分子供たちのホームステイの事業とかに割り振りをさせていただいていますので、この間もアルゼンチンに子供たち11人派遣をさせていただきましたので、そういったところにも使わせていただいていると。さらには、この間のアーバンスポーツの世界大会なんかにも割り振りをさせていただいています。なので、26億1,000万、令和6年までにいただきました。

そして補助金です。これ大体2分の1の額ですから、事業費の2分の1でこれだけの金額をいただいていますので、170億5,000万。今年も幾らぐらいなのか、今年も同じ30億ぐらいいくのですか。多分今年も同じぐらいいくでしょうから、200億円近いお金をこの12年間で町へ補助金として持ってきたということが言えるのかなというふうに思っていますので、大体この12年間で700億円前後ぐらいのお金を生み出すことができた。さらには、このほかに固定資産税も僕が就任当時からすると、令和9年で言えばもう9億円ぐらい増えます。今の時点でも多分5億から6億増えていますから、物流施設がいっぱいできたものですから。なので、そういったものも加味していくと、もっとお金が増えていくところになっていきますし、特別交付税なんかも3,000万ぐらいだったのかな、それ今1億何千万もらえるように積み重ねていっていますので、これをできれば10億円ぐらいにしていきたいなど。

〔「440億です」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） 分かりました。これ数字が間違っているのだ、すみません。なので、ぜひこういう12年間で稼いだ金額というのは、本当に今までだったら考えつかなかったような財源です。ふるさと納税しかり、企業版しかり、さらには固定資産税なんかも企業誘致しないとできないものですから。そして補助金です。だから、やっぱりそういうものを、あるものはどんどん徹底してやっていて、あるうちに活用するというのが境町の考えでありますので、この12年間で稼いだ金額については、そのぐらいの金額になるかなというふうに思っています。

財政の健全度についても、非常に財政が改善をいたしまして、その前のページで収支見通しなどもありますし、さらには皆さんのお手元に、こういった今後5年後の財政予測を出しています。もう今後5年後の財政予測の中で、ふるさと納税は10億円で見えていますから、10億円ということは、50億来年稼いだら、5年分もうそれで帳尻合うわけです。だから、ふるさと納税がいつなくなるか分からないし、それからいつ縮小するか分からないですけども、あるうちはしっかり使っていく中で、境町としては10億円あったら助かるなという財政見通しを出していますので、おかげさまで50億以上のお金をコンスタントに今いただいていますけれども、基金も積み増しをし、さらには境町モデルの収入も令和6年で1億3,800万ですから、皆さんに報告したさっきの数字は1億八千幾らでしたから、非常にここだけでも変わっていくわけです。ですので、今後の借金の見通しも、今これは上下水道を入れ

ての百四十何億ですから、一般会計だけだったら多分110億とかそんなものでしょうから、そういったところも繰上償還できるのか、それとも繰上償還した場合には何かペナルティがあるのか、そういったものも今調べているところであります。

将来負担比率も、おかげさまで令和6年度24.1まで来ました。180を超えていて笑われた頃からすると、もう本当にこれまで変わってきたし、実質公債費比率という実際に借金を返済している比率も、これ3年の平均なものですから、16.1からすると、もう間もなく半分になるのです。ですので、財政についてはこの12年間、非常にこれだけいろんなものをつくりながら、いろんな皆さんにもものやりながらも改善してきたというのが境町でありますので、ぜひ議会の皆様方にもご理解と、そして住民の皆さんにもご理解いただきたいなと思っています。

今後の予測については、先ほども話したとおり、例えばこれはもう何もやらなくてもですから。先ほどちょうど鈴木議員の質問の中で、境町モデルの収入がありました。あれはもう定期的に入ってきているので、今後5年間も潰れる会社ではないと思うのです。ですので、あのまま入ってきてやれば、何もしなくても財政は改善するというデータが出ていますので、よく例えば今回選挙になったときにもし僕負けてしまったら、違う人が出てきて財政悪くなったら、前の人がこんなに建物を建てたから悪くなったのだと思うのです。でも、ならないってこれ書いてありますから、ちゃんと。なったらその人の責任ですから。ちゃんとそこは皆さんご理解いただいて、なったら、何もしなくても財政よくなりますから。もしなったら、おまえ何もするなって言えば財政よくなるはずですから。もし悪くなったら僕のせいではなくて、本当はなった人のせいですから、そこははっきりと言っておきたいなというふうに思っています。

そして、災害や非常時の対応、これが重要なのです。本当にこの12年間に関東・東北豪雨、そこから土手まで全部潜ったのです。うちもひどいだろうけれども、何とかしてくれってみんな言いました。町長んちもひどいだろうけれどもってみんな分かるわけです。うちも7台か8台あった車のうち、ほぼ水没をして、そのうち半分が車両保険入っていなかったの、バスをはじめ全部全額負担になるわけですけども、もう本当に店舗なんかも全部駄目になってしまってひどかったわけです。でも、そのときに最初、誰とは言わないですけども、そのときの課長さんが持ってきた例えばデータは、床上浸水30件とか、そういう数字なのです。150件とかないと災害救助法の適用にならないのです。でも見てください、そこから土手までですよ、150件以上あるでしょう、どう見ても。でも、30件とか40件で持ってきたのです。もう一回調べ直せって、百五十何件以上で申請したのです。そのことによって災害救助法の適用になって、補助金が出たわけです。これ知らないと出ないのです。だから、やっぱり70センチも80センチも1メートルも一緒ではないですか、もう80センチ潜ったらひどい話ではないですか。もうこのぐらい潜っているわけですから、全部床上で。なのだけれども、やっぱり真面目にやっていくと駄目なのです。だから、うちはエリアで指定したのです。この辺は1メートル行っているかも、この辺は70かもしれないけれども、こっちは1メートル行っているだろうというのを町で指

定したのです。だから、エリアで1メートルって指定をしたので、災害救助法の適用になったのです。ですからそういうのも、これは僕は北茨城の市長から教えてもらったのですけれども、やっぱり知っている知らないとで損してしまうわけです。やっぱり災害というのは首長の最初の対応、さらには職員の対応、それで随分変わってしまうのです。そのときやっぱり対応して、1名の方が亡くなって本当に境町としても大きな被害を受けたわけでありましてけれども、長井戸沼なんかもあれだけ切れて、あんな細い、あのとき仁連川でしたっけ、何川でしたっけ。

〔「宮戸川」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） 宮戸川で、あんなちっちゃいのがいつもですよ、あれが切れただけであんな湖みたいになってしまったわけです。9メートルぐらい深いところあったかな、あれが現実だったわけです。常陸牛を水陸両用車で助けたりとかいろいろやりましたけれども、本当にそういう意味では、知っている知らないとというのは非常に大きくて、災害復旧についてもふるさと納税を活用させていただいて、ふるさと納税も多くの寄附をいただいたりしながら災害復旧もしましたし、とにかく冷蔵庫とか、それから洗濯機とか、全部駄目になってしまったのです。あれ遅いところって、回収するのも遅いのです。うちはもう目の前に出せと、そうしたらうちのほうのボランティアスタッフが全部回収してしまうと、そういうふうにしたのです。最終的に町が処分すればいいではないですか。処分にかかったお金を請求すれば、でもそういうことってやらないから、災害のときって遅れていくわけです。うちの町にはプロがいますから、常総の水害で県で片づけをしたのは野尻さんですから、今度は野尻さんがいることによって、関東・東北豪雨のような水害が起きても、もう産廃の処理とかそういうのはプロが片づけてくれるのと、それともう一つは静喜さんのところに、もう今自衛隊から来ていますから、あのときは自衛隊に僕お願いしたのです。そうしたら、知事の許可でないと駄目だと言って、それは昔の法律なのです。あの当時の法律だったら、首長が言えば来たのです。でも、その当時はまだできたばかりだったので分からなくて、自衛隊来なかったのです。でも、今はいることによって、ささいな水害であっても、今は自衛隊からリエゾンが来るようになってくれました。ですので、やっぱりこういうのも経験と、そういったことをやっていくことが重要ですし、今関東・東北豪雨については町民の皆さんにも理解いただいて、もう本当に静地区なんかは毎年いつも防災訓練やってもらっていたおかげで、やっぱり町外に避難するのだと。今度防災ステーションもできますけれども、非常にそういう意味では、町民の皆さん意識が高くなっているので、ありがたいなと思っています。

そして、コロナで実施した対策については、本当に様々なものをやらせていただきました。本当にコロナ禍大変な中でありましたけれども、境町では消毒液を配布したり、マスクを配布したり、それから茨城県の高校生たちが休校にならなかったということで、クラウドファンディングならぬ企業版のファンディングで県のいろんな企業から1億円ほど集めさせていただいて、マスクを買って、それを県立高校をはじめ私立の子供たちに配らせていただきました。そんな事業も、実はほかの自治体に先駆けて、これもちょうど市長会長に、笠間の市長にこういうことやりたいのだけれどもいいかって

聞いたら、いいよと、いいことだからどんどんやれって言われて、ありがとうございますと言って、お金を集めてマスク配ったのです。マスクなんかは、当時手に入らないときありましたよね、全然手に入らない。そうしたら、あるルートから手に入るというのがいっぱい来たのです、防護服も。それなので、それ全部周りの近隣の首長にも教えてあげました。戸田市の市長まで教えました。幾ら幾らで、マスク幾らだけでも入るよと、どうする買うかと言って、それ全部案内してあげて、水戸なんかもそうです。みんな幾ら幾らで入るけれどもって、ではうちは幾らだから、変わらないからうちはこっちで買ってしまふよとか、そんなことを首長たちで連携しながら、マスクを配ったり、消毒液配ったり、いろんなことをさせていただきました。さらにはPCR検査や、そして住民の皆さんに対してのワクチン接種、大体3回ぐらいまで皆さん受けたと思うのですけれども、それも職員の皆さんが一生懸命やってくれたおかげで住民の皆さんからは、いや、職員の皆さんのおかげでワクチン接種できたということで、そんなこともいただきました。本当にこのコロナという国難とも言えるような、そんな災害の中、全ての部分に対してやっぱり災害に対しての意識が、境町は多分職員をはじめ高かったのではないかなと。ですので、コロナに対してもしっかりと、職員の皆さんをはじめ対応していただいたということが言えるのかなというふうに思っていますので、本当に普通共産党から褒められたりしないのですけれども、共産党の赤旗で県会議員の共産党の方から、境町はこんなことやっている、すばらしいって言って僕赤旗にも載ったものですから、別に共産党ではないのですけれども、非常にそういう意味では、やっぱり住民のためになるかどうかでしっかりとやっていけば、いろんな人が評価してくれるのかなというふうに思っていますので、ぜひこの12年間、1人ではできなかったこと、議会の皆さん、議長をはじめお手伝いをさせていただき、職員の皆さんは、副町長をはじめお手伝いをさせていただき、そして教育委員会は教育長をはじめ学校の先生も大変だったと思います。ALT入れたりとか大変だったと思いますけれども、協力をしていただき、今のこの12年間の境町があるのかなと思っていますので、境町の住民の皆さんにもいろんな恩恵が、今までは外から入ってきた人たちにお金を落としてもらって、経済が回るよというふうな部分が結構ありましたけれども、今後は高齢になっても安心して暮らせるまちづくり、さらには子供たちが安心して暮らせるまちづくり、そして健康で長生きできる、そういうまちづくりを目指してやっていきたいというふうに思っていますので、どうかよろしくお願いを申し上げまして答弁とさせていただきたいと思います。

後で、この関東・東北豪雨災害後の取組というのを年表で作っていただいております。これは、高桑さんたちがもうびっちり講師で呼ばれるものですから、すばらしい取組だと。いろいろこうやって資料にさせていただいています。コロナのときもそうですし、災害協定もこうやってつくっていただいていますので、議会の皆さんに、この3部については全員に配っていただいて、境町の災害についての取組だとか災害協定だとか、コロナのときは何をやったとか、そういったものをお示しさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げまして、私からの答弁とさせていただきたいと思います。ご質問誠にありがとうございました。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） 大変詳細なるご説明ありがとうございました。私が言うまでもありませんけれども、危機管理能力が高くて、そして財務マネジメントが上手だと、それでさらに様々な政策を打っていただいて、こうした取組を通じて住民の満足度は高まっているものと思いますし、近頃テレビですとか、新聞ですとか、ユーチューブ等でも取り上げられることもあって、シビックプライドも相当地に向上したのではないかなというふうに思っております。

まだ時間が11分ありますので、この際ちょっと私の同世代、子育て世代から寄せられる質問についてお聞きしたいと思います。境町、子育て政策大変すばらしいものでありますけれども、子供服を買うお店がないですとか、あとは業務スーパーですとか、あとはとりせんさんとか、安いスーパーがもっとあったらいいのではないかとか、そういった生活の利便性を高めてもらいたいというような声の子育て世代から寄せられているのも、また事実でございます。私は、町長が誘致活動を頑張っているのももちろん理解しておりますので、その都度都度説明をしておりますけれども、この際町長から改めてご説明いただければと思います。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、お答えをさせていただきます。

子供服を買うところがない、子供服ならぬ大人の服もなかなかないというところだと思うのですが、こういったものもやっていないわけではなくて、西松屋さんとかアカチャンホンポさん、それからしまむらさんとか、営業はかけるのですけれども、やっぱり2万4,000人という人口があるのと、さらには例えば15分行くと、あそこの幸手のほうにあたりとか、それから坂東市にもあたりとか、それから春日部のイオンにあたりというところの商圈があって、なかなか出しづらいというのが現状であります。

家賃をゼロにするから、建物を造るから、どうだ来ないかと言っても、なかなかやっぱり乗ってこない部分がございますので、今やっている取組としては、ユナイテッドアローズさんに、この間も道の駅で洋服屋さんをやっていただきました。それを今の時期に、例えばもう間もなく3月、4月というのは卒業、入学シーズンになるわけです。であれば、卒業、入学シーズンに着るお子さんたちの服を持ってきて、お母さんたちのも持ってきて、親子ペアルックとかを安い価格で道の駅でやってくれないとか、そういう提案はしております。さらには、子供服も持ってきてそこでやってくれないかという話もしてあります。多分3月までには1回はやっていただけるのではないかなというふうに思っています。

それと、安いスーパーというか、価格が安心して買えるというか、業務スーパーとかジャパンミートとかいろいろあります。やっていないわけではなくて、コストコさんにしても何にしてもやるのです。この間もカインズの会長にまで会いました、土屋会長。これ上場していないで1兆円企業なので

す。カインズさんというのは、ワークマンも持っていたり、あとベイシアも持っているのです。だから、カインズタウンってできないかと言って、全部土地見せました。インターのそばから、旭化成の土地から、静から、いろんなところ見せたけれども、いやと言うのです。会長に見せていやって言われると、なかなかこれ進まないのだけれども。ただ、大泉の企業情報交換会とって、大泉の町長仲いいので、群馬の大泉の企業って、あそこはパナソニックとかスバルとか味の素とかいっぱいあるのです。そこにいつも呼んでいただいて企業の方々と話もするのですけれども、そんな中であったのは、企業名は言えないですけれども、染谷議員がよく坂東市に買いに行っているようなスーパーさんが、ぜひ境町にも出したいというような話もそのときいただいて、ぜひ出してくれという話もしたところですが、でもどうせ出すならばスーパー単体ではなくて、ちょっといろんなものが入るような、そんなものもいいですねという話もしたところでもありますので、可能性がゼロというわけではないですから、引き続き行政としてもやっていきたいと思っていますし、逆に中心市街地で今T P L A C Eが倒産をした。そして、12月14日にはもうエコスも出てくということでもありますので、ああいったものも地権者の皆さんがいるものですから、15件。地権者の皆さんのご理解をいただかないとなかなかできないですけれども、地権者の皆さんのご理解がいただけないと、そのままもう放置をして廃墟になって、固定資産税は町へ払っていただくというような状況になってしまいますから、ここは地権者の皆さんにご理解いただいて、町へもしあれば何か協力して、あそこを中心市街地の活性化としてやってもらえないとか、そういう要望が上がってくれば議会とともに相談して、そこに例えば、仁義的には多分エコスさんが出ていったので、エコスさんに声を1回はかけるでしょうけれども、そういうところこそそういうスーパーさんに入っていただくとか、そういうことも考えられるし、今は来る来ないは別です。来る来ないは別ですが、J Pホールディングスさんって、木村さんのところにもいつも子供たちが農業体験に行っていますけれども、いつも3,000万の企業版をくれる500億円の企業ですけれども、坂井社長がニトリさん仲いいものですから、ぜひニトリさんに、あれ丸ごとニトリにならないですかとか聞いただけ聞いてくれという話はしながら、1%の可能性でも言わないことにはならないので、ニトリさんに取りあえず聞いてくれと、そういう話もしたりしておりますので、難しいですけれども、2万4,000人で。でも町は諦めずに、町というか、僕は諦めずに、全てのそういう町民の要望をかなえられるかは別として、言うのはただですから、枝さん、言うのはただ。だから、やっぱり逆に企業には僕が代わりに言っていこうかというのはありますので、タリーズの創業者の松田公太さんにも、この間ちょうど同じテーブルだったので、あれタリーズ誘致やったのですけれども、全然駄目なのですよねと言ったら、僕もタリーズ売ってしまったからなんて言われて、売ってしまったのでは関係ないのかとか思いながら、本当にだからトップに言いながら出していただく。スーパーホテルさんも、今ようやく建設始まりますけれども、13階建ての260室、これも会長、副会長がいて、出店をしていただくことを決めていただきましたので、やっぱりそういう形で、本当に住民の皆さんが境町にあったらいいよねという施設があるではないですか、カインズグループも断られたけれども、

まだまだこういうのあるよって、ラインではつながっているものですから、勝手に会長にこういうのはどうでしょうって送って、とにかく興味を持ってもらって、そして町へ進出してもらおうというのが一番かなというふうには思っていますので、引き続き、できないではなくて、何とかできるように努力をしていきたいというふうには思っていますので、よろしく願いいたします。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し質問はございますか。

染谷直人君。

○2番（染谷直人君） ありがとうございます。

質問ではございません。かれこれもう5年前になります。私、東京から町長の姿見ていました。自分もこの町の町政に参加してみたいと思って、帰ってきて選挙に出ました。先ほど言ったように、1%の可能性でも追求する姿勢というのは、本当に近くで見させていただいて、政治家の先輩としてすばらしいと思っております。次の4年間も橋本町長の下、町政のかじ取りをしていただけるように、私たちが心を一つに応援をしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

以上で私の質問を終わりといたします。ありがとうございます。

○議長（倉持 功君） これで、染谷直人君の一般質問を終わります。